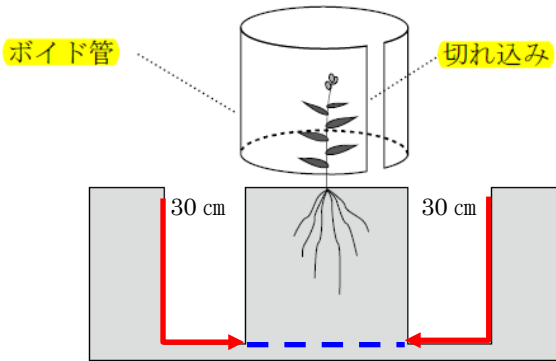
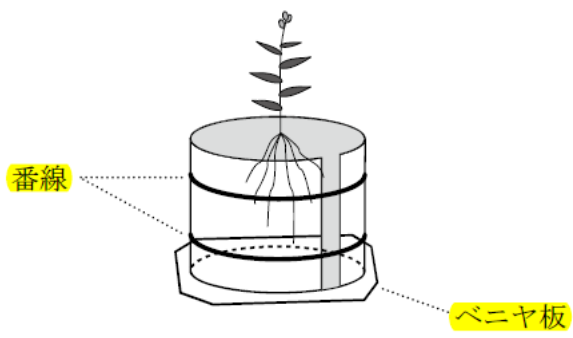
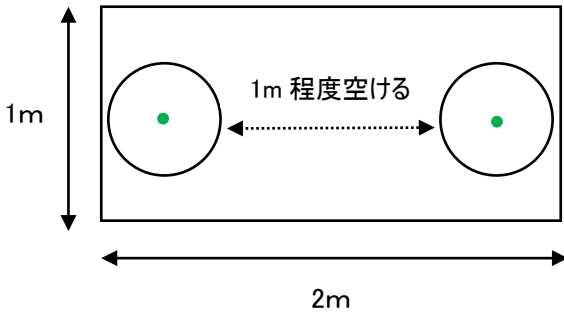


資 料 編

－ 資料編目次 －

1. ラン移植手順 資料編 1

1. ラン移植手順（ボイド管移植）

<p>① 対象個体の掘り取り</p> <p>対象個体を中心に、径 30 cm 見当で、周辺の土壌を深さ 30 cm 程度*まで掘る。</p> <p>掘り取りボイド管と同じ高さになるまで、周辺土壌に溝を掘り込む形となる。周辺から入り込む樹木根は切りながら掘り進める。</p> <p>※株周辺の土壌には、結実した蒴果からこぼれた種子が含まれている。また、移植株周辺の共生菌の生息環境をできるだけ壊さないよう配慮し、マーキング等も含め、現状を維持した状態で、周辺土壌ごと移植する。</p>	 <p>矢印で示した溝にスコップ等を差し入れ、剣先コップまたは移植ごてで底部（破線部）を切り離し、堀上げる。</p>
<p>② 固定、運搬</p> <p>切り込みを入れた径 30 cm の紙製ボイド管を溝に差し入れ、番線で結束する。</p> <p>ボイド管下部を掘り取り、底部はベニヤ板を被せて固定する。</p> <p>掘り取った個体はトロ箱等に入れて運搬する。</p> <p>対象個体が近接して生育している場合は、ひとつのボイド管で複数個体を移植する。</p>	
<p>③ 植穴を掘る</p> <p>移植個体の掘り取りと並行して、移植先に植え穴を掘り進める。</p> <p>ボイド管径 30 cm が収まる穴 (D30 cm × W30 cm × H30 cm) を掘るものとする。植え穴にはじょうろで灌水し、土となじむように攪拌しておく。</p>	
<p>④ 植え付け作業</p> <p>植え穴に掘り取った移植株を入れる。ボイド管移植株は、1m 程度の間隔を空けて植付ける。</p> <p>植え穴の間隙に土壌を入れ、土を突き入れながらじょうろで灌水を行う。この時、ボイド管内の土壌を攪乱しないよう、作業を行う。</p>	